

七五三

七五三とは、7 歳、5 歳、3 歳の子供の成長を祝う日本の年中行事です。天和元年（1681 年）11 月 15 日、館林城主、徳川徳松の健康を祈って始まったとされる説が有力です。

概要

男の子は 3 歳と 5 歳、女の子は 3 歳よ 7 歳の年の 11 月 15 日に、成長を祝って神社・お寺などに詣でる行事です。本来は数え年ですが、現在は満年齢で行われる場合が多いようです。地方によっては男の子の 3 歳を行わない所もあるようです。

由来と現状

旧暦の 15 日はかつては二十八宿の鬼宿日（鬼が出歩かない日）に当たり、何事をするにも吉であるとされました。また、旧暦の 11 月は収穫を終えてその実りを神に感謝する月であり、その月の満月の日である 15 日に、氏神への収穫の感謝を兼ねて子供の成長を感謝し、加護を祈るようになりました。明治改暦以降は新暦の 11 月 15 日に行われるようになりました。

現在では 11 月 15 日にこだわらずに、11 月中のいずれかの土日・祝日に行く人も多くなっています。北海道等、寒冷地では 11 月 15 日前後の時期は寒くなっていることから、一ヶ月早めて 10 月 15 日に行く場合もあります。

3 歳は髪を伸ばす「髪置（かみおき）」、5 歳は初めて袴をつける「袴着（はかまぎ）」、7 歳は、それまでの紐付きの着物に代わって、本仕立ての着物と丸帯という大人の装いをする「帯解（おびとき）・紐落（ひもおとし）」の名残りです。現在では行事に正装に準じた衣装（晴れ着）で臨みます。洋服の場合もありますが和服のほうが多く、女の子は、この時に初めて化粧（厚化粧の場合が多い）をして貰うことが多いようです。

近世までの日本は、現在の発展途上国と同様の状況が原因（栄養不足・健康への知識不足・貧困など）で乳幼児が成人するまでの生存率はきわめて低く、その様な事から乳幼児の生存を祝う節目として定着しました。

男児が女児よりも早く祝うのは後継者としての意味合いもありますが、医療技術が発達する現代までは女児よりも男児の生存率が低かったためです。

また、3 歳＝言葉、5 歳＝知恵、7 歳＝歯を神から授かる事を感謝する地方や、3 歳、5 歳、7 歳は子供の厄として、七五三を一種の厄祓としている地方もあります。

千歳飴

七五三では、千歳飴を食べて祝います。千歳飴は、親が子供の成長を祝う縁起物（長く伸びる）として、細く長くなっており、縁起が良いとされる紅白それぞれの色で着色されています。せんざい飴、千年飴、寿命飴ともいい、子供の宮参りの祝い菓子として売られています。

松竹梅や鶴亀など、めでたい色絵をあしらった縦長の化粧袋に入っている健康長寿の縁起飴です。千歳飴の売り出しは、1615 年に大阪の平野甚左衛門が江戸に出て商った説と、宝永年間（1688～1711）江戸・浅草の飴売り七兵衛が売ったのが始まりとする説とがあります。

七五三祝いで着飾った子供が「千歳飴」の袋を手にした光景は、11 月の風物詩として日本の伝統風習を感じさせる微笑ましい行事の一つですね。

スギウラ株式会社

〒370-0006
高崎市問屋町 2-2-8

電話番号
代 表
027-361-5808
営業1課
027-361-5734
営業2課
027-361-5780

Fax
027-361-1272

当社 Web サイト
www.kamisugiura.co.jp

お気付きの点や質問、疑問などありましたら、ご遠慮なく営業または、下記までお問合せください。

お問合せ
メールアドレス
sg-arai-yoshio
@kamisugiura.co.jp

ニュースレターQ

スギウラ株式会社 027-361-5808

特 集

- ・ たてもの探訪
～印刷博物館
- ・ ICカードが出来るまで
- ・ マスク
- ・ 七五三

たてもの探訪 ～印刷博物館

11 月になりました。日もすっかり短くなり、季節は晩秋となりましたが、今年は夏の暑さのせいか紅葉も遅く、あまり秋の雰囲気を感じられぬまま冬になってしまいそうです。

その秋の陽気に誘われて、というわけではありませんが「印刷博物館」に行ってきました。同館はＪＲ飯田橋駅から徒歩約 10 分、トッパン小石川ビルの中にあります。1 階の P&P ギャラリー（無料）と、地下の常設展 + 企画展（入場料・大人 300 円）で構成されています。

地下に降りるとまず、プロローグ展示ゾーンがあります。やや湾曲した廊下にラスコーの壁画をはじめ、ロゼッタストーンなど人類の歴史の中の、印刷物を含めた様々な記録物が展示されています。その中には勿論、グーテンベルクが開発した活版印刷機で初めて刷った印刷物「42 行聖書」なども含まれています。ハンドルを回して簡単なアニメーションを見る展示物もあります。

総合展示場では様々な展示物について、サインパネルと解説モニタで詳しく知ることが出来ます。スイッチを入れるとそれぞれ 3～5 分程度の映像で解説が始まりますが、結構な数があるので、全部見ようとするとかなり時間がかかる上、疲れます。展示場に入るとまず置かれているのが「百万塔陀羅尼(だらに)」)。これは印刷された年代が記録に残る、現存世界最古の印刷物です。天平宝字 8 年（西暦 764 年）～宝亀元年（770 年）にかけて、孝謙天皇は国の安泰を願い、陀羅尼経を 100 万枚印刷させるとともに木製の三重小塔一つひとつに納め、法隆寺などの寺に分置させました。印刷方法については、

現在木版説と銅板説があり、ハッキリとはしておりません。

その次が「阿弥陀如来坐像印仏・摺仏」で、こちらは阿弥陀如来の坐像を印として版木に彫り、判子を押すように繰り返し紙に印した印仏と、一枚の版木に何体もの阿弥陀如来坐像を彫って墨を付け、その上に紙を当てることで摺り写した摺仏があります。京都浄瑠璃寺の九本阿弥陀如来坐像の中から見つかったもので、現在確認されている仏教版画の中では世界最古のものです。前述のグーテンベルクの聖書もそうですが、人類の初期印刷技術においては、宗教が重要な位置を占めていたことが分かりますね。

館内でさらに歩を進めていくと、池田満寿夫や棟方志功などの版画、外国の印刷物、さらに小紙 38 号で触れました浮世絵等の展示があります。

詳しく説明すると紙面が足りない上、行く楽しみも減ってしまうので割愛しますが、ここまで読んで興味を持たれた方は、一度訪れてみることをお勧めいたします。



ICカードが出来るまで



印刷博物館の話が続きますが、1階のP&Pギャラリーでやっていたのが表題の企画です。ギャラリーでは期間を区切って色々な企画展示をしています。今回私が行ったときはこの内容でした。(現在は終了して別の展示)

ICカードというと、接触型・非接触型と2種に大別されますが、後者のほうがより日本では一般的かもしれません。現在、非接触型ICカードといえば、Suicaやオサイフケータイなどを思い浮かべる方もおりましたが、この度の展示では「メタルファイター ベイブレード」(タカラトミー)が題材に扱われておりました。ベイブレードとは、現代版ベーゴマのような玩具ですが、「ベイポイントカード」という非接触型ICカードを使ってポイントを貯め、それを使ってゲームが出来たりします。玩具のみならず、漫画、アニメ、ゲーム作品などにもなっている人気商品です。

閑話休題。そのICカードの製造に、印刷の技術が応用されています。カード表面のデザイン印刷は勿論ですが、中身であるアンテナシートの作成にも印刷技術が使われています。

まずフィルムシートの両面に金属板を貼り付けて、原版のアンテナパターンを焼き付けます。

感光した部分は固まり、それ以外は取り除きます。アンテナ以外は薬品で金属を腐食させ、アンテナ部分のみを残してアンテナシートが完成です。これの表と裏にデザインシートを貼り付けて、ICカードが出来上がります。

ところで非接触型ICカードは、どうやってデータを読み取るのでしょうか？それはこのアンテナに秘密があります。非接触型ICカードのリーダーもしくはライターは、電磁波を発しています。その電磁波をカードのアンテナが感知し、電気を発生させ、それをエネルギーとして無線でデータのやり取りをします。つまりカードの中で電磁石が出来ているのですね。

非接触型ICカードは、ICチップがカードの中なので金属端子がむき出しになっていません。そのため磨耗による劣化や汚れ等の心配が無く、メンテナンスコストを削減できたり、接触不良が起きないといった利点があります。

因みに接触型ICカードは、記録できる容量が大きいのが特徴です。そのためキャッシュカードやクレジットカードなど、セキュリティ機能を重視したものに多く使われます。電源は、リーダーもしくはライターに挿入したとき、接点を通じて機械から供給されます。

これからもますます日常で触れる機会も増えるであろう非接触型ICカード。身近な技術の応用で作られていたというのは、素直に驚きでした。

営業1課・今月の商品紹介

☆ 封筒・カード

年末のご挨拶、クリスマスカードに使える商品多数！封筒の在庫も拡充しました。

マスク

寒くなると風邪やインフルエンザの流行とともに、マスクの出番が多くなります。そこで今回はマスクについて調べてみました。

マスクの定義

天然繊維・化学繊維の繊維物または不織布を主な主体材料として、口と鼻を覆う形状で、花粉、ホコリなどの粒子が体内に侵入するのを抑制。また、風邪などの咳やくしゃみの飛沫の飛散を抑制することを目的に使用される、薬事法に該当しない衛生用製品。

マスクの歴史

日本でのマスクの歴史は大正時代に始まります。当時のマスクは、真鍮の金網を芯にして布地をフィルターとして取り付けただけのもので、「工場用マスク」として粉塵よけに利用されていました。このマスクが、1919年のいわゆる「スペイン風邪」の大流行をきっかけに、予防品として注目を集めるようになります。その後、マスクは徐々に普及し、関東大震災後、内山武商店から発売された「壽マスク」が、商標登録品第一号に認定。マスクの改良も徐々に進み、金網をセルロイドに変えたものやフィルター部分にベッチンや皮などを使用したものが現れます。

昭和に入り、インフルエンザが再び猛威をふるった1934年に、マスクは大流行します。以後、インフルエンザがはやるたびに、マスクの出荷量も爆発的に増加。枠のない布地だけのものが誕生したり、布地にガーゼが使われるようになるなど、マスクは次第にその形を変えていき、現在の平型のマスクの形になったのが、1948年ごろと言われています。

マスクの種類

マスクはその用途により、「家庭用マスク」「医療用マスク」「産業用マスク」の3種類に分けられます。

※家庭用マスク

風邪、花粉対策や防寒・保湿などの目的で日常に使われるマスクです。素材や形状、サイズなども豊富で、フィルター性能と通気性のバランスがよいため、長時間に渡り、快適に使用できるのも特徴です。フィルター部分の素材も「ガーゼタイプ」と「不織布タイプ」の2種類に分けられます。ガーゼは綿織物を重ね合わせたもので、古くから使われていた素材で保湿効果の

面でも優れています。最近では中に特殊なフィルターを縫いこんで花粉などの通過を防ぐものも増えています。一方不織布は複数の原料を組み合わせることで、厚みや空隙を自由に調整できるのが特徴です。近年の花粉症流行により急激に普及しました。値段が安く、使い切りを前提にしたものが中心です。現在では、家庭用マスク総生産数の9割以上を占めています。

※医療用マスク

主に医療現場もしくは医療用に使用される感染防止用マスクで、細菌を含む粒子(4~5μm)を95%以上除去できるマスクです。感染した人の咳などによって微生物を含んだ粒子が大気中に拡がるのを防ぐ、即ち「患者から感染していない人への感染経路を防止する」ことを目的としたものと言えます。“外科の”“手術の”という意味から「サージカルマスク」とも呼ばれています。

※産業用マスク

主に工場などで作業時の防塵対策として使用されるマスクです。工業用マスクや防塵マスクとも呼ばれ、粉塵の量や性質により口や鼻だけを覆うもののほかに顔面すべてを覆うものもあります。

豆知識

不織布とは・・・

文字通り「織っていない布」のこと。繊維あるいは糸などを織ったりせず、熱的、機械的、化学的作用により繊維を接着または絡み合わせた薄いシート状の布のことを言います。粒子捕集性や通気性に優れることからマスクのフィルター部に使われたり、紙おむつや生理用品などに幅広く使われています。

現在はたくさんの種類のマスクがあります。多くの種類やサイズの中から、使用目的はもちろんのこと、付け心地や顔との密着性などいくつか使ってみて、自分に合うものを選ぶようにしたいものです。